

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
愛知ペット専門学校		平成20年2月22日		牧 良		〒 444-0007 (住所) 愛知県岡崎市大平町川田58番地1 (電話) 0564-64-7225			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人アイピーシー学園		平成20年2月22日		牧 良		〒 444-0007 (住所) 愛知県岡崎市大平町川田58番地1 (電話) 0564-64-7225			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程		ドッグトレーナー科		平成21(2009)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	ドッグトレーナー科は、ペット産業等の社会に広く貢献し得る有能な人材として、主に犬の訓練業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	社会人マナー、一般常識。専門分野では、主に犬のしつけ方について犬の学習理論に基づいた技法を学ぶ。日本動物専門学校協会ドッグトレーナー1級・2級・3級、愛玩動物飼養管理士2級・1級、ほか								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,845 単位時間	255 単位時間	75 単位時間	1,515 単位時間	— 単位時間	— 単位時間	
			単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
40 人	36 人		0 人	0 %	3 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		13	人					
	■就職希望者数(D)		12	人					
	■就職者数(E)		12	人					
	■地元就職者数(F)		9	人					
	■就職率(E/D)		100	%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		75	%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		92	%					
	■進学者数		0	人					
	■その他								
	特になし								
第三者による学校評価	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)								
	■主な就職先、業界等								
	(令和6年度卒業生) ペット業界(ペットショップ、犬のしつけ方教室 など)								
当該学科のホームページURL	https://aichipet.com/?p=9000								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定)								
	総授業時数				1,845 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				705 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				1,230 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				470 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				30 単位時間				
	(B：単位数による算定)								
	総単位数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位				
うち必修単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位					
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者				(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				2 人
	② 学士の学位を有する者等				(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人
	③ 高等学校教諭等経験者				(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位				(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人
	⑤ その他				(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人
	計								3 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数								2 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
近年ペット産業を取り巻く分野において、めまぐるしく変化し、且つ進化し続ける市場を背景に、学校教育法(第124条)における「専修学校の目的」に鑑み、その専門分野において市場が求める実践的な知識・技術・技能を十分に認知するべく本学科が目指す職業教育に関連した企業と組織的に連携して必要十分な授業科目を創設していくこととし、またその実施に当たっては、当該専門課程の教育にふさわしい授業方法への改善・工夫を行った上で教育課程を編成することとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
ドッグトレーナー科が目指す職業教育における関連事業の企業と連携し、同企業より当該過程に関連する専門分野に精通した各役職者等を構成員とした「教育課程編成委員会」を学校内に組織し、委員会の方針に沿って科長が編成を行い、学校長の許可を得てから当年度の実施及び履行がなされるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
脇田 亮治	一般社団法人全国ペット協会 専務理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日(13年目)	①
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(13年目)	③
里野 浩昭	株式会社エピックヴィジョン 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(2年目)	③
上 舞子	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任補佐	令和7年4月1日～令和8年3月31日(4年目)	③
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(13年目)	—
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科长	令和7年4月1日～令和8年3月31日(13年目)	—
細川 綾子	愛知ペット専門学校 プロトリマー科科长	令和7年4月1日～令和8年3月31日(13年目)	—
金 天志	愛知ペット専門学校 ナーシング&トリミング科科长	令和7年4月1日～令和8年3月31日(2年目)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月21日 14:00～15:00
第2回 令和8年3月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
「社会人教育と専門教育のバランス」および「小さな目標の積み重ねによる成功体験の重視」といった意見を踏まえ、社会人基礎力の向上を目的としたカリキュラム改善を行う。具体的には、カウンセリングテクニックの授業において「何気ない雑談」の強化を図る。雑談は社会人マナーであると同時に、トレーナーとしての信頼構築にも資する技術である。学生の習熟度に応じたステップ目標を設定し、①社会人マナーとしての雑談、②トレーナーとしての雑談の二つのテーマで指導を行う。今後は、評価指標の整備と他科目への展開も検討課題とする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット産業界が求める知識及び技能を的確に反映すると共に、社会人としての基礎能力の向上を重視した教育を行う為、積極的に企業等へ学習活動の協力を求め、より実践的な専門性の確保を目的として学習機会（企業内実習、企業参加の学内実習活動等）を設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と学校の打ち合わせ等により企業やペット業界のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、企業からの派遣講師による授業の実施または企業等における実習等を実施する。学生はその日に受けた指導内容、自己評価等を実習日誌等に記載、定期的に学校の教員が確認し、必要に応じて研修や試験等を実施する。さらに企業と事前に打ち合わせた基準あるいは評価に基づき、学校の教員が成績評価及び単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
インターンシップ	4. 【校外】企業等が主催するインターンシップ等(学科が主体的に企画していないものを指す。)	インターンシップでは、お客様に対する接客技術を習得することを目的とし、提携先の株式会社アイピーシーにて実務研修を行う。	株式会社アイピーシー
訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	犬の服従6項目を家庭犬のレベルから競技会レベルまで実践する。	株式会社アイピーシー
訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	まわれ、股ぐり歩行などの一芸項目を実際に教えていき、ドッグダンスの構成などショーテクニックを実践する	株式会社アイピーシー
専科選択実習	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	しつけ教室、ふれあい活動、発表会などの継続訓練を行う。	株式会社アイピーシー
能力開発実習	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	使役訓練犬に対し、搜索項目、盲導・聴導・介助の項目より選択し、チームで育成する。	株式会社アイピーシー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。
例えば、本学科においては犬のしつけ方、ステージパフォーマンス、災害救助犬などの使役犬訓練、犬のバイタル測定や飼育環境の整備方法など、積極的に勉強会や研修を実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	パフォーマンス・ショー	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和6年9月24日、令和7年2月13日	対象:	専科教員
内容	パフォーマンス技術の向上およびショー構成のスキルアップなどアドバイスを受け、授業実施に活かす		

研修名:	しつけ教室企画および顧客対応術	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和6年11月13日、12月16日・17日	対象:	専科教員
内容	顧客対応術について、学生指導のポイントや言葉選びなど		

研修名:	わんわんイベント	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和6年5月3日・4日、10月26日・27日、 令和7年2月22日・23日	対象:	専科教員
内容	パフォーマンスイベントおよびわんわんステージの実務研修、参加教員の実務面のスキル向上		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教職員研修会	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和6年4月～令和7年3月(月2～3回)	対象:	全教職員
内容	対人トラブル、学習意欲の低下を軽減させるには、風紀、美化意識の向上、など		

(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	パフォーマンス・ショー	連携企業等: 株式会社アイピーシー
期間:	令和7年9月、令和8年2月を予定	対象: 専科教員
内容	パフォーマンス技術の向上およびショー構成のスキルアップなどアドバイスを受け、授業実施に活かす	
研修名:	しつけ教室企画および顧客対応術	連携企業等: 株式会社アイピーシー
期間:	令和6年11月13日、12月16日・17日	対象: 専科教員
内容	顧客対応術について、学生指導のポイントや言葉選びなど	
研修名:	わんわんイベント	連携企業等: 株式会社アイピーシー
期間:	令和7年5月、10月、令和8年2月を予定	対象: 専科教員
内容	パフォーマンスイベントおよびわんわんステージの実務研修、参加教員の実務面のスキル向上	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	教職員研修会	連携企業等: 株式会社アイピーシー
期間:	令和7年4月～令和8年3月(月2～3回)	対象: 全教職員
内容	カリキュラム設計と科目間連携の最適化、指導困難学生への対応と支援、体験入学のあり方、など	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当該専門課程の教育にふさわしい教育活動が実施されたことに対する成果を検証し、必要な改善を速やかに行うことで教育水準の向上を図ることが重要である。また、学校教育活動に対しペット産業に関わる企業や保護者などと連携し意見を積極的に汲み取ることで相互理解の促進を図り、教育活動の改善と発展を推し進める。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか 等
(2)学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか 等
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 等
(4)学修成果	・就職率の向上は図られているか 等
(5)学生支援	・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 等
(6)教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 等
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか 等
(8)財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 等
(9)法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 等
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

特に問題なく進められている、と一致したご意見をいただいた。「学び方の多様性への対応」の重要性が指摘され、ナースング&トリミング科における通信課程新設に向けた具体的な運営計画の策定を全教職員で進行中。成果指標の設定についても、委員会の助言を踏まえ検討を開始している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(13年目)	企業等委員
里野 浩昭	株式会社エピックヴィジョン 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(2年目)	企業等委員
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理次長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(13年目)	企業等委員
川瀬 理映子	株式会社アイピーシー ペットコミュニティプラザ日進店 副係長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(3年目)	企業等委員
上 舞子	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任補佐	令和7年4月1日～令和8年3月31日(4年目)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://aichipet.com/wp-content/uploads/koukai/202505gakkouhyouka01.pdf

公表時期: 令和7年5月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当該専門課程の教育活動が実施されたことに対する活動及び成果について連携企業及び保護者や地域住民に対しわかりやすく示し、情報提供を行うことで学校としての説明責任を果たすとともに相互の理解を深め、連携の促進を図る。また、情報の共有による連携協力の促進を通じて、学校・企業・家庭それぞれの意見が反映され、教育力が高められることを期待する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・所在地、連絡先、校長名 等
(2) 各学科等の教育	・各学科の定員数、入学者数、在生徒数 等
(3) 教職員	・教職員数(職名別) 等
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 等
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 等
(6) 学生の生活支援	・学生相談に関する体制 等
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) 等
(8) 学校の財務	・貸借対照表、収支計算書 等
(9) 学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 等
(10) 国際連携の状況	・
(11) その他	・

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://aichipet.com/wp-content/uploads/koukai/202506gaidorain01.pdf>

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーナー科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ペット一般教養Ⅰ	就職セミナー（業界就活事情、社会人の心構え、履歴書の書き方、自己分析の方法等）	1後	15	1	○			○		○		
2	○			特別活動Ⅰ	スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う。	1通	60	2			○	○	△	○		
3	○			共通基礎	犬との接し方や犬具等の使い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。	1前	60	2	△		○	○	△	○		
4	○			各科実習	所属する部科に関わらず、美容、訓練、看護、繁殖の基礎を学ぶ。	1前	60	2	△		○	△	○	○	○	
5	○			動物形態機能学Ⅰ	犬猫を中心に動物の身体の構造、機能を理解し、なりやすい疾患について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
6	○			動物感染症学Ⅰ	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	1通	30	2	○			○		○		
7	○			動物健康管理	健全な犬猫に必要な日常ケアと適性飼育方法について理解し、飼い主指導に活かす。	1前	15	1	○			○		○		
8	○			動物医療関連法規Ⅰ	動物愛護及び管理に関する法律等の責務や規制事項を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
9	○			動物行動学	基本理念、本能行動の理解、行動発現のしくみ、犬と猫の主な問題行動と対処法を学ぶ。犬種の特徴や性格を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○	○	
10	○			伴侶動物Ⅰ	エキゾチックアニマルや猫の生理、生態などから適正飼養方法及び主な疾病について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
11	○			専科実習	ドッグトレーナーとして必要な人の基本動作、命令の出し方、教え方、犬に伝わる賞罰の与え方とポイント、補助の与え方を学ぶ。	1通	270	9	△		○	△	○	○		
12	○			インターンシップ	インターンシップでは、お客様に対する接客技術を習得することを目的とし、提携先の株式会社アイピーシーにて実務研修を行う。	1通	30	1			○		○	○		○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーナー科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
13	○			飼育管理実習Ⅰ	多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	1通	90	3			○		○	○		○
14	○			動物飼育実習Ⅰ	展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常ケア等を通し基礎力を養う。	1前	45	1			○		○	○		○
15	○			動物飼育実習Ⅱ	日常ケア、体重コントロール、備品管理に対し、実務レベルでの管理能力の育成を目指す。	1前	90	3			○		○	○		○
16	○			動物飼育実習Ⅲ	日常ケア、体重コントロール、備品管理に対し、実務レベルでの管理能力の育成を目指し、レベルアップを図る。	1後	90	3			○		○	○		○
17	○			ペット一般教養Ⅱ	就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説	2通	30	2	○			○		○		
18	○			特別活動Ⅱ	主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営。グループ活動及び実行委員によるリーダーシップの育成を目的としている。	2通	60	2			○	○	△	○		
19	○			ゼミナール	課題研究と連動して動物の生体を研究する。プレゼン技術向上。	2通	30	2	△	○		○		○		
20	○			課題研究	卒業研究及び卒業論文の作成	2通	45	3	△	○		○		○		
21	○			高等訓練学	実習で行っているトレーニング方法を理論的に学ぶ。	2通	15	1	○		△	○		○		
22	○			専科選択科目	犬の問題行動に対する知識を深め、顧客に対してのカウンセリング、アドバイス等の話術を学ぶ。	2通	45	3	○		△	○		○		
23	○			飼育管理実習Ⅱ	飼育管理および飼養施設の衛生管理の実践。日常生活における犬のしつけ、健康管理、ケア等を繰り返し習得する。	2通	300	10			○	○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーナー科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
24	○			訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス	犬の服従6項目を家庭犬のレベルから競技会レベルまで実践する。	2通	120	4	△		○	○		○		○
25	○			訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス	まわれ、股くぐり歩行などの一芸項目を実際に教えていき、ドッグダンスの構成などショーテクニックを実践する	2通	90	3	△		○	○		○		○
26	○			専科選択実習	しつけ教室、ふれあい活動、発表会などの継続訓練を行う。	2通	90	3	△		○	○	△	○		○
27	○			能力開発実習	使役訓練犬に対し、捜索項目、盲導・聴導・介助の項目より選択し、チームで育成する。	2通	60	2	△		○	○	△	○		○
合計					27 科目			72 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 2年以上在学し、総授業時数の3分の2以上の履修を前提に各授業科		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 原則的に、教育課程表に定められている年次で履修する。		1 学期の授業期間	22 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。